

おいしい海苔の本が完成 関わる人たちの思いが詰まった1冊

市有明海ツーリズム研究会（西田晴征会長）は、海苔本「これが柳川のおいしい海苔」を制作しました。宿泊施設や飲食店などに置いて、柳川を訪れる観光客へPRします。全国2位の生産額を誇る柳川産海苔。生産者や飲食店、商社など、海苔に関わるさまざまな人たちの思いがこの1冊に込められています。本には、海苔の歴史や栄養成分、おいしい焼き方をはじめ、昨年7月に開校したやながわ食の学校で開発されたさまざまなアレンジ料理も掲載。食材としての海苔の魅力も伝えています。

本の表紙で海苔をおいしそうに食べるのは、西田隼太君（大和中1年）と弟の膳太君（中島小3年）。2人の父で大和漁協青壮年部会長の務める西田剛さん（中島、36歳）も生産者として本に登場します。剛さんは「柳川産海苔の良さを多くの人に広めていきたい。生産者の思いが消費者に少しでも伝わればうれしい」と日焼けした顔に白い歯を見せながら話しました。この海苔本は、全99ページのB5判サイズ。市内の図書館や校区公民館、コミュニティセンター、小中学校などに置く予定です。



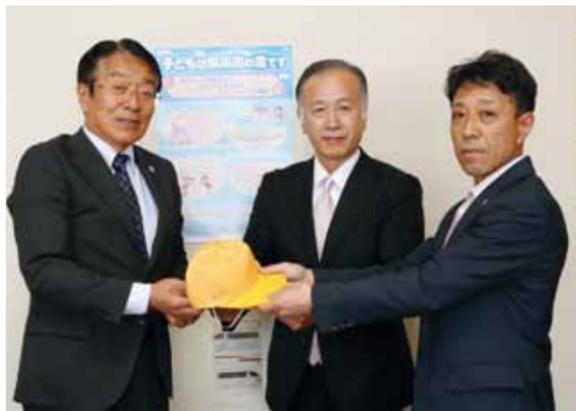
【上】海苔本をPRする西田さん家族
【下】やながわ食の学校で講演する西田さん（中央）



子どもたちの願いが書かれた短冊を流す実行委員会のメンバー

子どもに代わり短冊流す 簡略化して開催 第49回柳川流し雛祭り

4月3日、新町の掘割で柳川流し雛祭りがありました。例年、園児や児童らが10数艘のドンコ舟に乗船し開催していますが、今年は新型コロナウイルスの影響で主催する実行委員会のメンバーだけで開催。メンバーは「自転車で乗れるように」などと子どもたちが書いた短冊を掘割に流しました。同委員会の松石洋一事務局長は「中止の予定でしたが、子どもたちから届いた短冊を何とかしたかった。来年は本来の形でやりたい」と第50回へ向けての抱負を語りました。



帽子を手渡す石橋会長（中央）たち

児童の安全は大人が守る ライオンズクラブが黄色い帽子を寄贈

柳川ライオンズクラブが4月2日、市内の小中学校に入学した1年生へ、黄色い帽子を贈りました。今年度市内の小中学校に入学した児童は、519人。同クラブは、1年生が交通事故に巻き込まれないようにと、長年寄贈を続けています。帽子はこれまで入学式で直接児童に贈られていましたが、今年は新型コロナウイルスの影響で沖教育長が代表して受け取りました。石橋征四郎会長は「児童の安全を心から願っています。これからも寄贈を続けていきたい」と思いを述べました。



布マスクを手渡す田中社長（左）

子どもたちの笑顔が戻るように 自社で作った布マスク1万1000枚を寄贈

田中染工場の田中孝司社長が、新型コロナウイルス感染拡大防止に役立ててもらうため、自社で作った布マスク1万1000枚を市へ寄贈しました。自社の技術を生かして1人でも感染者を減らそうと、従業員が協力してマスクを製作。寄贈されたマスクは市内の小中学生に2枚ずつ配布されます。4月3日に市役所柳川庁舎を訪問した田中社長は「皆さんの不安が少しでも和らげば。子どもたちの笑顔が早く見たい」とマスクに込めた思いを話しました。



10万円を寄付する近藤代表（中央）

少年の健全育成に役立てて 近藤工業と筑邦銀行が10万円寄付

近藤工業の近藤幸則代表と、筑邦銀行の金子末見常務執行役員が、3月27日、市役所柳川庁舎を訪問しました。近藤工業は、筑邦銀行の「ちくぎん地域応援募債」を利用し、10万円を市教育委員会に寄付。金子市長に目録を渡した近藤代表は、「子どものころは貧しくとても苦労した。今の子どもたちが、自分の考えを发表することができる場づくりを、今後も継続できるようにお願いしたい。児童生徒の健全育成に役立ててほしい」と語りました。

俳句

今月の入選作品・兼題
「入学」「桜」「雲雀」「春光」「当季雑詠」

春光を浴びて精出す野良仕事

大橋弘茂（百町）

のどけしや道草多き三輪車
揚雲雀祝ふ舟路の角かくし
芍薬の芽は土を割り競ふかに
草取りに精出す父や麦青む
平家桜追はれし京都偲び散る
張り出して逆さ桜の青い空
玄関に防犯カメラ牡丹の芽
干拓地見渡すかぎり春の色
爛漫の老木の下花の宴
巣立つ子の背をそと押す桜かな
遠くから白き辛夷の香が走る
木蓮の一夜の雨に散りにけり
春光や蹴ふわりと野外ヨガ
タブレット息子の家族と花見する
葉脈を噛みしめて食む桜餅
水郷や何処も彼処も雛の宿
人気去りしつとりと咲く夕桜
入学の夢いっぱいの中学生
ピカピカのランドセルしよひ春の風

境 幸代（西浜武）
甲木幸栄（蟹町）
梅崎三和子（田脇）
古賀治美（南浜武）
只隈康博（團）
森永ちづる（七ツ家）
浦 哲之（采）
高崎登美雄（團）
甲斐田園一（吉雷町）
津留和巳（六色）
星野 潜（宮永町）
星野ヒデ子（宮永町）
松尾一子（西浜武）
井上勝世士（豊原）
森フチエ（弥四郎町）
西牟田みどり（蒲船津）
山口房子（白鳥）
小柳エツ子（中島）
田中眞智子（西浜武）

◆選者の句
野焼き終へ阿蘇は太古の景となる 絃一

俳句を募集します。選句者は、中村絃一さん。5月の兼題は「鯉」「麦の秋」「霞切」「牡丹」「当季雑詠」。入選作品は7月1日号に掲載します。

●応募方法 俳句と明記し、自作、未発表の作品（※1人3句以内）に、住所、氏名、年齢、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報聴係（☎77・8425、FAX 74・5520）へ、5月20日（※必着）までにお送りください。